

|     |     |      |      |        |      |          |
|-----|-----|------|------|--------|------|----------|
| 病院長 | 副院長 | 事務部長 | 看護部長 | 総務企画課長 | 経理課長 | 地域連携相談室長 |
|     |     |      |      |        |      |          |

報告月日 平成 30 年 05 月 10 日  
報告者 相良 一枝

## 地域医療支援病院運営委員会および地域協議会 議事録

|                 |  |     |            |
|-----------------|--|-----|------------|
| 開催月日            | 平成 30 年 05 月 09 日（水）18 時 20 分～19 時 00 分  |     |            |
| 開催場所            | JCHO 北海道病院第 2 会議室  |     |            |
| 委員長             | 中村 保博先生  | 事務局 | 地域連携相談室：相良 |
| 委員出席者<br>（敬称略）  | [外部委員]<br>中村 保博（札幌市医師会豊平区支部副支部長）<br>柳瀬 義博（札幌薬剤師会常務理事）<br>館 睦子（札幌市豊平区保健福祉部長）<br>藤岡 喬一（中の島福祉のまち推進センター運営委員長）<br>[当病院職員]<br>数井 啓藏（副院長兼地域ケアマネジメント〒部長）<br>古家 乾（JCHO 北海道病院 病院長）   |     |            |
| 委員欠席者<br>（敬称略）  | [外部委員]<br>佐々木 泉頭（佐々木総合法律事務所代表）<br>佐藤 恵（腎臓内科めぐみクリニック院長）   |     |            |
| その他出席者<br>（敬称略） | [当病院]<br>堀 由美（看護部長）<br>小野寺 正逸（事務部長）  |     |            |
| 要旨              | 議題<br>1、平成 29 年度 当病院の地域医療連携の現況報告<br>① 紹介患者数・紹介率の推移②逆紹介患者数・逆紹介率の推移③病棟・外来利用の推移 ④共同利用（施設・設備・病床）について ⑥地域医療研修について、小野寺事務部長より資料に基づき報告。<br>紹介率は算定基準の 50%を超えている。地域医療研修について、循環器内科の縮小により、回数が減っているが院外の参加者数は前年度より増えた。<br>外来患者数については誤りがあったので、次回の委員会で正しいものを配布する。<br>2、その他<br>①地域講演会 地域講演会の開催状況、5 月の予定、今後の開催予定を報告する。<br>JCHO カフェ 6 月開催予定を報告する。<br>② 北海道からの要請で産後うつ早期発見の事業に参加する事を報告する。 |     |            |

中村保博委員長より質問

1. 平成 29 年度 はどのような年であったか

古家院長より 北海道大学へ循環器の医師の派遣について依頼を続けているので今後 循環器の入院も再開できればと思っている。平成 28 年は 循環器撤退によってできたあき病床を埋めるために入院日数が長くなっていた。平成 29 年度は DPC 病院として、DPC に沿った形で入院期間を考えられるようになり入院日数が短くなった。地域ケアマネジメントセンターを設置し円滑な地域連携を行えるように努めていく。

2. 消化器内科は札幌市全区からの紹介があるのでは

古家院長より、診療圏である豊平区、南区、中央区に紹介が多いのは同じであるが手稲区以外には懇意にしている医師もおり、紹介を受けている。胆・膵の内視鏡治療に対応出来る病院が少ないので、そういった紹介を受けることが多い。

館委員より、産後うつについて、札幌市の参加がない現状ではある。札幌市は保健師による産後訪問を実施し、チェックリストを用い 鬱状態を把握している。9 点以上が紹介の対応ではあるが、精神科受診への抵抗感から様子見ることがある。どうしているか？

相良より、今まだ該当者がいない。近隣の精神科と相談し受け入れては頂けること確約しているので、ケースバイケースとはなるが、精神科受診を促してく事になる。

次回 8 / 8